

対象年度		平成31年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		空き家対策事業(都市計画課)						予算事業名		都市計画総務事務経費			
予 算 科 目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	空き家対策の推進に関する特別措置法				
			08	03	01	0501	経常経費						
総合計画体系	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)						事業の区分	主要事業					
	2-2ゆとりある住みよいまちづくり(住環境)												
	②良好な住環境の形成						担当課係等	都市計画課 建築係					
	3空き家対策の推進												
事業期間		継続(平成28年度～平成32年度)											
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
空き家を利活用することによって、安定した居住環境の整備を推奨するため、「空き家対策計画」を策定しその計画に基づき進めていく。住環境を阻害する空き家の除却、空き家を提供することにより、結城市への定住に寄与する。							結城市の人口減少や、既存の建物の老朽化に伴い居住その他の使用されてない空き家が年々増加し、市内景観の悪化、安全・公衆衛生の悪化などの問題を発生させていることから。						
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】						
●空き家等対策計画の策定 ●空家対策検討委員会の設置 ●茨城県宅地建物取引協会との協定 ●空き家バンクの設置 ●利活用空き家マップ作成 ●今後法的手続き、登記などの事務が発生するため、生活環境課、税務課他の部署との連携業務。							結城市内にある空き家及びその所有者、結城市に定住を考えている市民						
							【事業をとりまく環境の変化】 今後、年々増加する空き家に対し、「空き家対策計画」を策定しそれに基づき、空き家の有効活用、空き家の所有者に対する撤去の助言を周知していき、市内の住環境の悪化を未然防止、空き家を有効活用した街づくりを推進する。						
【平成31年度 事業内容】				【平成32年度 事業内容】				【平成33年度 事業内容】					
●市空家条例改正に伴う空家対策計画見直し ●空家対策に向けた協議会設置				●市街化区域の空き家件数調査 ●空き家バンク設置に向けての協議会設置				●宅地取引協会などの第三者機関との協定					
■事業費													
			H29年度		H30年度								
財源内訳	国庫支出金	0		0									
	県支出金	0		0									
	地方債	0		0									
	その他	0		0									
	一般財源	0		19									
歳入計(千円)			0		19								
歳出内訳	節(番号+名称)		金額(千円)		金額(千円)								
	11 需用費		0		19								
歳出計(千円)(A)			0		19								
伸び率(%)					皆増								
備考	総合計画74ページ 予算書 138 ページ												

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H29年度	H30年度	H31年度
活動 指標	空家対策計画の策定	件	目標	1.00	1.00	0.00
	国庫補助金の確保のため		実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	年々増加する空家は、地域環境を阻害しており、また国や市の関心も高いため、必要な事業である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	市が行わなければいけない事業である。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	空き家対策を行っている、市町村の取り組み状況を参考に、「空家対策計画」を作成している。
効率性	コストの効率性・人員効率	C 改善の余地はある	空き家対策について、生活環境課、都市計画課とそれぞれの課で行っているが、今後、窓口の一本化を図るため、新たな部署が必要である。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	地域住環境阻害などを阻止できるが、対象者が所有者となることもあるため、どちらともいえない。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	「空家等対策計画」の案はできており、関係団体との調整が必要。
進捗度	事業の進捗	C 遅れている	市条例の改正、空き家の有効利用や、補助金の助成などまだ検討課題が多い。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
空き家問題に対し、年々空き家自体が増加し市民の住環境を阻害しているため、市民の関心も強まっている。現在活用方法を検討中であるが、「空家対策計画」を完成させ、補助金確保をできる体制にしていく。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
国庫補助金の受け入れられる事務の環境整備、他の機関との連絡調整、空き家バンクを創設した場合の、不動産業界との協定など検討課題は多いが、一つ一つ解決していく。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置 改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 現在も生活環境課との連携を図りながら進めているが、関係課と調整を図りながら最終的には担当課の一本化が必要となると思われる。	2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置 企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。
--	---